

# 令和元年度 学力・学習状況調査結果の分析

大明小学校

## 1 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- (4) 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲をたかめる。

## 2 学力面の成果と課題

- (1) 国語では、県の平均正答率より高く、全国平均とほぼ同等でした。無回答で終わらないように、一つの問題を丁寧にやり抜こうとする態度が解答状況から読み取れた反面、終わりの3問の無回答率が目立って高いことから、時間が足りなくなって最後の問題までできなかったことが読み取れました。また、正答数の人数分布グラフに2つの山があることから、二極化傾向にあります。
- (2) 算数では、県の平均正答率と同等で、全国平均とほぼ同等でした。無回答率が非常に低く、丁寧な取り組みです。記述説明型の問題でも自分なりに説明を書いていることから、日々授業で取り組む成果が見られます。正答数の人数分布グラフには狭い範囲で2つの山があることから、やや二極化傾向にあります。

### 国語科について

○次のことに成果がありました。

- ・ 目的に応じて、文章の内容を把握し、設問にあった答えを選ぶこと。
- ・ 話の展開に沿った、目的に合った質問を選ぶこと。

●次のことに課題がありました。

- ・ 漢字を正しく書く。
- ・ 文章全体から、まとめや要点が書かれた場所を示す「言葉」(例えば「このことから」「このように」)を手がかりにして、問われているまとめや要点を的確に読み取ること。
- ・ 読み取ったことを切り取りつなげて、報告にふさわしい表現 {理由 (なぜなら～だから)、敬体 (です。ます。)} で書くこと。

### 算数科について

○次のことに成果がありました。

- ・ 台形についての理解。
- ・ グラフから特徴や傾向を読み取ること。
- ・ ひき算の工夫した計算の仕方への理解。
- ・ 自分の考えを文や式を用いて説明しようとする事。

●次のことに課題がありました。

- ・説明の時に、算数で学習した専門用語（例えば図形の名称）を使用すること。
- ・読み手に正確に伝わる表現で説明すること。（特に、必要なことを省略しない）
- ・計算のきまり（例えば四則混合計算では、 $\times \div$ が優先）に沿って計算すること。

### 3 児童質問紙より

(1) 本校が望ましいと結果となった主な項目

- ・朝食を毎日食べている。
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- ・自分にはよいところがある。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・いじめは、どんなことがあってもいけない。
- ・全ての書く問題で、最後まで回答を書こうと努力した。（国語、算数とも）

(2) 本校に課題がある結果となった主な項目

- ・家で、自分で計画を立てて勉強している。
- ・国語の勉強が好き、国語の授業の内容がよく分かる。

### 4 これからの取り組み

(1) 算数の授業の中で

深い学びを行うために必要な、説明しようとする意欲、態度は育っていますので、さらに正確で相手に伝わる説明ができるように次のことを重視します。

- ・算数で学ぶ様々な用語を用いて説明すること。
- ・筋道立てて説明するために、ノートに考え方を書くとき、必要なことを省略しないで記述すること。

(2) 国語の授業の中で

学習の課題が明確な授業を行い、何を学んでどんな力を身につけたのかが児童にとってわかりやすい授業を行います。次のことを重視します。

- ・児童の実態に応じた、学習内容を選びすぐった授業づくり。
- ・文章を読みとるとき、目的や意図に応じて、どんな言葉に気をつけて読めばよいのか、言葉を重視した読解の学習。
- ・読み取ったことや自分の考えを、読み手に正確に伝わるように文章で書く学習。

(3) テストへの取り組み方アドバイス

- ・「最初の問題は簡単で、後に行くほど難しい」というイメージをなくすこと。
- ・出てきた順に取り組むのではなく、全体を見渡して、できそうな問題から先にやること。
- ・全体を見渡したら、大まかな時間配分計画を持つこと。

(4) 家庭学習への働きかけ

- ・計画的な学習習慣を身に付けるために、「家庭学習の手引き」を改善し、活用する。
- ・漢字や計算は反復により定着することから、定期的に宿題で振り返りながら自主学習につなげる。

今回の調査は、6学年の児童に対して行われましたが、大明小学校児童全体にも、同じような傾向が見られることから、今後も授業改善に努め、児童の課題を把握するとともに、個に応じた指導・支援の研究に努めていきます。